

自己評価結果

学校法人華園学園 藤ヶ丘幼稚園

1. 本園の教育目標

◆教育目標

『つよいこ よいこ がんばるこ』

◆教育方針

- ・身体をきたえて元気な子どもになります
- ・誰にでも親切にする優しい子どもになります
- ・よく考えて一生懸命頑張る子どもになります

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を基に幼児一人一人を把握しながら指導計画の再編成を行い、保育の質の向上を図る。
教育理念（特色ある保育：和太鼓・マウンテンバイク・スキー学習）に基づいた保育の実践を心がける。
保護者とのコミュニケーションの重要性、子どもの主体性を大切にする環境を構成する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

4月5月新型コロナウイルス感染症に対する北海道、札幌市の緊急事態宣言発令による休園が続いたため職員間で教育理念を再確認し、特徴あるカリキュラムについても確認する時間を設けた。

教育理念・教育目標 カリキュラムに関する事項	和太鼓「さぬき獅子太鼓」5月に職員間で練習。 子どもたちの柔軟さ覚えることの苦勞を職員も知ることが出来た。 スキー研修の成果 12月に国際スキー場にて研修。 子どもたちに楽しさが伝わるためには教諭が道具の使い方・取り組んでいる内容がどんなことに繋がっているのかを子どもたちに伝えられるようにする。 リトミックを共通化する。 同じように見えるリトミックだったが、それぞれの教諭によって違いがあったりしたためクラスの垣根を越えて取り組む時子どもたちにバラつきがあった。解消することができた。
見解・考察 今後の課題	1年目・2年目の先生が多く、1学期は覚えるのに必死であった。 教諭同士コミュニケーションがとりやすい環境にあるため、わからないことを聞けることはとても良い関係性である。 職員にとって今年度は、1年を通してどのような保育をするかということ学んだ。 時代に合わせた教諭の学び方を考える（IT推進等）。 時代に合わせた子どもたちの学びを捉え、意欲に繋げたい。

保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価	<p><職員体制></p> <p>職員が増え、行事の際の意思の疎通や教諭各々の理解度が違ったり連携の難しさを感じる場面もあった。話し合いを重ね、自分の役割を確認し、互いを意識することで職員一丸となって行事に取り組むこと、子どもたちと向き合うことが出来た。困難を乗り越え、達成感を味わうことが出来た。</p>
	<p><クラス運営></p> <p>園児の把握や実態に即した全体の目標、個人の目標を設定することが初めての教諭には副担任が指導できるよう配置を行い、子どもの育ちを見守った。</p>
	<p><環境設定></p> <p>本園のカリキュラムを踏まえた環境設定となっていた。</p>
	<p><園外研修の参加></p> <p>積極的に研修に参加するよう予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、配信の研修に参加することが多くなった。特別支援教育関係の研修では本園と置き換えながら講義を聴くことで実践につなげることができた。</p>
	<p><園内研修の実施></p> <p>『食育セミナー』外部講師を招き開催した。 野菜の選び方、子どもたちが楽しいと思う食への関心など教諭自身の学びができた。 『スキー研修』の実施。</p>
見解・考察 今後の課題	園全体で考えると教諭自身受け身な態勢である。失敗や間違うことを恐れず、わからないことを聞いたり見たり、自ら行動することを今後心掛け、教諭の主体性を養う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

それぞれの自己評価や話し合いを通して、全教職員が共通理解を図り、本園としての方針を確認することが出来たと思われる。職員は向上心を持ち、子どもたちと向き合うことを基本とする上で子どもの主体性を大切にした環境の構成については、今後も話し合い課題としていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	不審者対策や安全点検・安全管理・衛生管理を徹底する。
特別支援教育	個別指導計画の作成や研修会への参加、園内での連携、各関係機関との連携や訪問支援等を通して具体的な支援方法を学ぶ。
園に対する保護者の満足度の把握	コロナ禍における園での子どもたちの様子を発信する。時代背景を踏まえ、保護者が期待する幼稚園像を把握する。